

北海道浮魚ニュース

令和4(2022)年度20号

2022年11月8日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

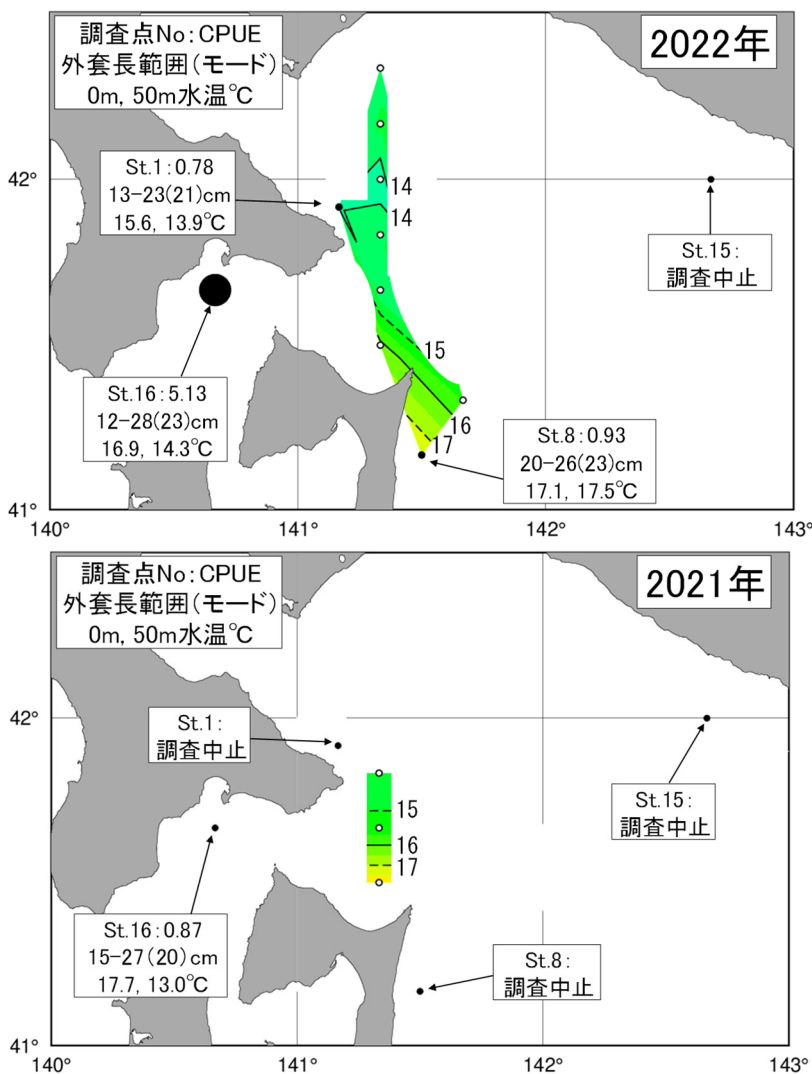
【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎道南太平洋スルメイカ調査結果

11月1～4日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、今回は時化のため、東経142°以東の調査は実施できませんでした。

- ・スルメイカの分布密度は昨年および過去5年平均を上回った。
- ・体サイズは昨年および過去5年平均より大型の個体が多かった。

1. 水温分布(図1)



2022年の漁獲調査点3点の表面水温は15.6～17.1°C(昨年の函館沖17.7°C)、深度50m層の水温は13.9～17.5°C(昨年の函館沖13.0°C)でした。

登別沖～下北半島沖における深度50m層の水温は13～17°C台であり、津軽海峡東側では昨年に比べ若干低めでした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図(上:2022年、下:2021年)
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測点

2. スルメイカの分布密度（図1、表1）

2022年の漁獲調査点3点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は0.78～5.13（2021年の函館沖：0.87）で、CPUEが最も高かったのは函館沖（St.16）でした。3調査点のCPUEはいずれも過去5年と比べ最も高い値でした。この時期に来遊の主体となるスルメイカ（冬季発生系群）の資源量は少ないと考えられますが、11月の道南太平洋としては、例年に比べ南下途中の群れが比較的多く来遊していた可能性が考えられます。

表1 11月道南太平洋スルメイカ調査におけるCPUEの経年変化
過去5年平均は2017～2021年の平均値

調査点	場所	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	過去5年平均
		11/6-11/10	11/5-11/9	11/4-11/8	11/5-7, 15-16	11/1-11/6	11/1-11/4	
St.1	木直沖	0.22	0.61	0.20	0.40	-	0.78	0.36
St.8	下北半島東沖	0.40	0.08	0.14	0.20	-	0.93	0.21
St.15	浦河沖	0.04	0.00	0.14	-	-	-	0.06
St.16	函館沖	0.28	0.12	1.83	0.31	0.87	5.13	0.68
平均CPUE		0.24	0.20	0.58	0.30	0.87	2.28	0.44

3. スルメイカの大きさ（図2）

2022年のスルメイカの外套長は12～28cm（昨年15～27cm）の範囲にありました（図2）。最も多く出現したイカの大きさ（モード）は23cmであり、昨年（20cm）および過去5年平均（19cm）より大きいサイズでした。また、22cm以上の大型個体の出現率も昨年および過去5年平均よりも高くなりました。

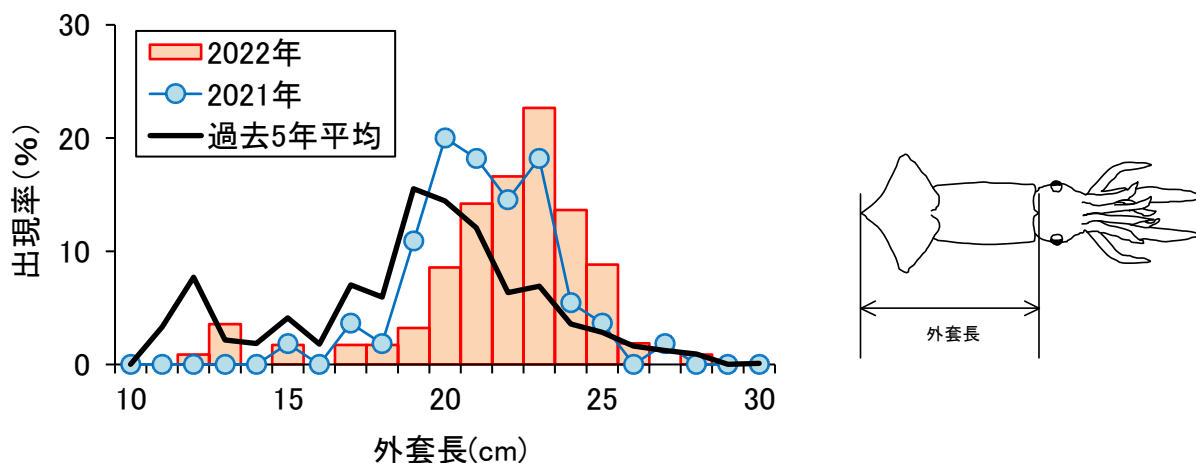


図2 調査海域全体のスルメイカの外套長組成

4. 標識放流 (図3)

函館沖の調査点 St. 16 で 57 尾の標識放流を行いました。放流したイカのヒレ付け根に黄色の標識タグが付いています。標識のついたスルメイカを発見された方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますようお願いします。

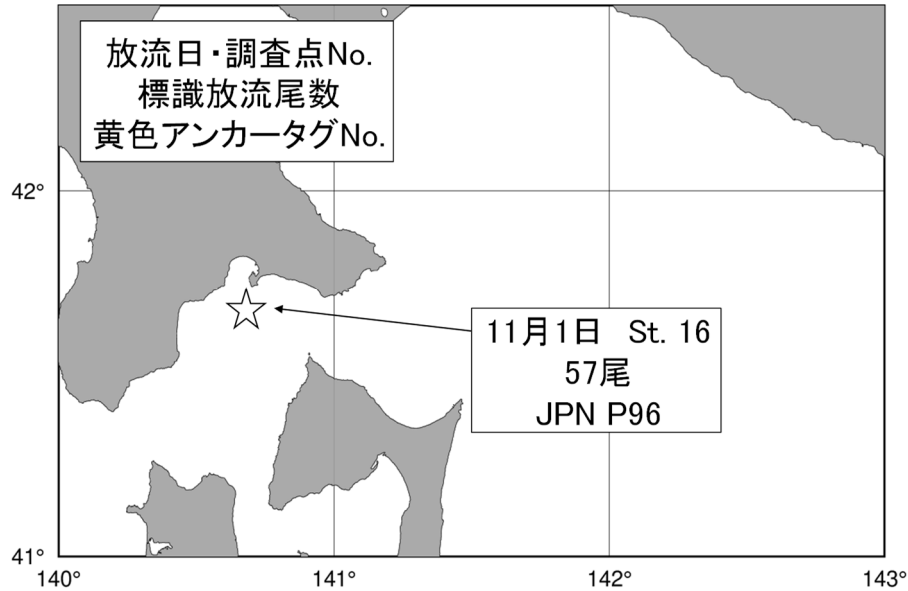


図3 標識放流の位置、放流日、尾数、及び標識記号・番号

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)